

## ツアーに向けて

プラハ・カメラータの皆様とは今回初めてご一緒させていただきます。普段自分のリサイタルは、私とピアノの編成がほとんどなので、なかなかできない大編成でのアンサンブルをとっても楽しみにしています。楽団によって音色は変わってくるので、どんな音楽になるのか今からワクワクしています。

今回のプログラムは、私からプラハの皆様には希望を出しました。曲目を見てピンとこなくても、聴けばわかるような楽曲が多いと思います。初めて聴きにきて頂ける方には、あまり難しく考えずに、私とプラハ・カメラータの演奏している風景や呼吸のようなものをまず感じていただけたらと思います。そしてバイオリンの音色やオケとのアンサンブルのかけ合いなどにも耳を傾けて頂ければうれしいです。

また、ヴィヴァルディの「四季」に挑戦します。難曲と呼ばれる楽曲なのですが、この曲を演奏する機会もあまりないと思うので、楽しんでいただけるように頑張りたいと思います。「四季」の他、バッハの協奏曲にも注目してください。2人のソロヴァイオリニストが室内楽をバックに演奏するのですが、2人のやり取りに注目してもらえると楽しめると思います。この曲は、同じメロディーが何度か出てくるのですが、ソリスト一人一人の歌い方(弾き方)にも個性があるので、じっくり聴いてみてください。

クラシックのコンサートが初めての方でも分かりやすく、十分に楽しんで頂ける内容にしたいと思っています。その日、その空間でしか味わえない“何か”を言葉ではなく、肌で直接感じていただけるのではないかと思います。

皆さん、是非、コンサートにいらしてください。

宮本笑里